



池田 良徳 (大阪経済法科大学) の

新 グルーズ 学

38

関西から北海道にでかけるには飛行機の利用が一般的ですが船で行く方法もあります。

日本海側の舞鶴からは小樽に、敦賀からは苫小牧に、新日本海フェリーのカーフェリーが毎日それぞれ1便就航しています。しかも、出港は深夜なので、仕事を終えてからでも十分に間に合います。そして、日本海を30ノットという高速で北上して、翌晩には北海道に到着します。

かつては2泊3日の航海でしたが、高速化で1泊2日の船旅に短縮されました。1千ポートルライナービスをするため

には各航路3隻の船が必要ですが、高速化の結果、21時間余りの航海時間となり、各航路2隻でのデイリーサービスが可能になりました。

高速カーフェリーは船価も高く、燃料も大量に採算をとることに難しいのですが、3隻の仕事を2隻でこなせるようになり、高い船価や燃料費でも採算をとることが可能になりました。

この関西と北海道を結ぶ航路は、夏の時期にはたいへん混み合っており、今年には新型コロナウイルスの影響か、お盆のフェリーターミナルに

船で行く夏の北海道

新日本海フェリー 「はまなす」に乗船



「はまなす」の船首の展望ラウンジから積丹半島の山々が見えました

の時期でも満席にはなっていないのでした。そこ

原を快走していました。まず能登半島沖に浮かぶ船倉島の近くを通り、佐渡島の北の海上を一路北海道を目指します。

で愛車に乗せていき、真夏の北海道ドライブ旅行を家族ですることにしました。乗ったのは舞鶴と小樽を結ぶ航路の「はまなす」です。自宅のある堺市から高速道路で2時間半のドライブで、舞鶴

途中、小樽を出た際、船「あかしあ」と反航しました。お互い30ノットで、相対速度は100ポル以上となり、あつという間のすれ違いでした。

舞鶴本海に出ました。一夜明け、三食が楽しめます。いろいろな料理の並ぶビュッ

かつては北海道の海の玄関口として繁栄した小樽には、明治時代からの様々な建物や運河が残っており、今では一大観光地となっています。ホテルに入る前に運河に寄ると、

舞鶴湾の中を進んで、日

運河めぐりの遊覧船に観光客がたくさん乗船していました。

分。うねるように複雑な

航海中、朝、昼、晩と

ける

光客がたくさん乗船して

ける

光客がたくさん乗船して